

七

大塔宮の工の二年へ行く道を左に

見て、^{結の底を}水の滞りに流れる川の縁を

沿ひて^{いかに}行く。浄明寺を^{その}奥に持

つ。底間へその入口に東^ある。二に

は華の橋と修養する名を^つけた橋

か。^{この橋の}あつた。その^はかいつ

てゐる。え^れを渡つて行つた^{はま}。一帯

のいかに底間へ^そであつた。

鎌倉に多い谷^やうの一つで

最上の位置に^は流れる。伴つて

^{あつた}。可成り^強え。ゆる^か。

な^り。山は^の後^はに^さ切られ

た。この谷間^はは^の縁の^小川

の水が流れる音か、爽やかに響か

ほ^の静かさを^{まだ}保たれてゐる。青

の縁の滴や、^は鮮かき格が

ある。^{日橋}。一所ほど入つた

貝塚跡の^はたがた

うきりの中途に、

山^を上る北に